

「仙台二高」によるこそ

校長（仙台二高 高3 7回生）
早坂 重行 博士（教育情報学）



たやすく成功するような体験のみであれば即時的な結果を期待するようになるし、失敗するとすぐ落胆してしまうだろう。効力感の強さには、忍耐強い努力によって障害に打ち勝つ体験が要求される。

「激動社会の中の自己効力」アルバート・バンデューラ編
本明寛ら訳 より

新入生の皆さん、合格おめでとう。今年の新入生の皆さんは、伝統ある仙台二高の高8 1回生ということになります。皆さんにとっては、もう昔のことだと思いますが、合格した皆さんの中には、数ある高校の選択肢の中から、仙台二高を目指すことをきめるにあたって、迷った人もいたと思います。その中で、最終的に仙台二高を目標として選び、難関の入試を乗り越え、合格することができたことに、校長として、そして仙台二高の卒業生の一人として、心よりお祝いを申し上げます。

さて、部活動については、次のようなことが言われております。

教育は多面的な営みであり、学力を伸ばすだけが、教育ではありません。スポーツの効果を強調する意図で著書を書いたわけではないのですが、学校の成績や受験といった短期的な成果ではなく、長期的な結果に目を向けると、スポーツは効果的な教育手段と言えます。スポーツはリーダーになる経験もでき、忍耐力や責任感、社会性といった非認知能力を高めることにもつながります。（中室 2025）

ここで述べられている「学力」は、教科学力つまり認知能力を示していると思われま。ここでは、スポーツに焦点を当てて、述べられていますが、私の教師の経験からいっても、運動部・文化部の両方にいえることだと思います。もちろん、教科の学力そして運動部、文化部活動における各競技のスキル獲得、試合等の結果が大事なことは当たり前ですが、教科の学力、運動部・文化部における技術スキルという認知能力と、忍耐力、責任感、社会性といった非認知能力は相互作用的に育成されるといわれております（OECD 2018）。

新入生の皆さんは、これからの二高の生活において、学習でも部活動でも、より高みに挑戦することになります。その高いハードルを乗り越えるためには、困難やリスク、そして失敗や挫折を皆さん自身の創意工夫で乗り越えることが大事になってきます。むしろ、困難やリスク、失敗や挫折が大きければ、大きいほど、成長できるわけです。二高の受験を突破した皆さんにはその創意工夫を創造する基礎力が認知能力・非認知能力とも十分に備わっています。そして、高校時代に身に付けたその経験・能力が大学・大学院そして社会に出てからとても大切なものとなります。

人間がものごとを遂行していくうえの困難やつまづきは、成功するためには絶えず努力することが必要なのだということを教える役割を果たしている。成功するためには何を賭けるのかを確信した後は、逆境に直面してもそれに耐え、つまづきから素早く立ち直る。耐えがたいときを耐えることによって、より力強く逆境から立ち上がるのである。(A. バンデューラ 1997)

本校は「文武一道」を校是として大事にしてきました。先輩方は、学習と部活動の両立を目指し、この二高に集った友人たちとのレベルの高い「学び合い」の中で、日々自分を成長させています。それは苦しく、つらいこともあります。とてもおもしろく、楽しいことでもあります。美馬・山内(2005)は学習のデザインについて次のように述べています。

葛藤状況に追い込まれることは人間にとって苦しい経験です。たいへんで苦しいのだけど、本質的にはおもしろいという一見矛盾した感情を上手に共存させることが学習活動のデザインにとって非常に重要です。

仙台二高の「文武一道」には、認知能力・非認知能力の育成について、たいへんで苦しい葛藤の中、本質的な学びの面白さを含んでいるというように、上手く学びがデザインされているといえます。高いハードルを乗り越えるために、創意工夫をしていく苦しさ・大変さ、そして楽しさ、さらにその先の成果を得られる実感を持てるのが仙台二高の学びの特色といえるでしょう。

「文武一道」を実践するためには、まずは高校生活を俯瞰してみることで、そして入学前に入念な準備が必要です。この入学のしおりを十二分に活用してもらえることを期待しております。

参考 アルバート・バンデューラ編 本明寛ら訳 激動社会の中の自己効力
中室牧子 科学的根拠(エビデンス)で子育て ダイヤモンド社
経済協力開発機構(OECD) 社会情動的スキル 学びに向かう力
美馬のゆり・山内祐平 「未来の学び」をデザインする